

あとがき

寿岳一家の文化的業績について、ご家族亡き後、凍結されたままであることを案じた向日市在住の数人のメンバーが、2015年8月に研究会を結成し、2年余の間に7回の講演会を催してきました。本冊子はその時々にご専門の先生を迎えて行われた講演の記録集です。

その主たる成果を顧みると、まず一家の住居であった「向日庵」が、昭和の住宅建築の典型としては、指定文化財に値する建築であることが鮮明になったこと。

寿岳文章氏の英文学者、書誌学者としての幾多の業績が報告され、特に日本民芸協会の創立者の一員であり、美術工芸としての民芸研究はもとより、日本全国に亘る和紙の調査、その膨大な資料の蓄積と温存、和紙の国際的な次元での位置づけをなされたこと等がクローズアップされました。

またしづ夫人の翻訳家、随筆家としての文学的業績のご報告をいただきました。夫人は文筆活動を通じて向日近隣の自然の美しさ、とりわけ竹を賛美し、かつまた女性の社会参加の啓蒙にもつとめられました。

寿岳章子氏は、専門の日本語学や抄物の研究のかたわら、家族や京都の暮らしに関わるエッセイを残され、京都の街についての著書が現在の町屋ブームの魁（さきがけ）となっていること。地域文化、とりわけ乙訓への熱いまなざしを示されたことなどが明らかになりました。

寿岳潤氏については天文学者としての研究や人となりについてお話があり、改めて国際的な天文学者の姿が浮き上がりました。

これらは、寿岳家それぞれの方々の業績の記憶と記録が喪失される可能性を払拭する活動となったと考えます。

この活動を通じて、寿岳一家の思索の深さ、豊かな人間性、交流の広さ、行動のバイタリティーに唯々驚嘆するばかりであります。そして現在もなお、寿岳一家に寄せる熱い敬愛の念をい多く人々の多いことにも驚いています。寿岳一家の文化への思いの一筋の糸をたぐれば、長く強い蔓となって葉が生え、花が咲き、広く野原に燦然と輝く寿岳ワールドを見ることができると信じております。当初からの研究会と、ここに収められた講演は、今日のNPO法人「向日庵」の活動に繋がっています。

末文になりますが、ここにご登壇下さり、講演記録に目を通しご訂正、修正を加えてくださった講師の先生方、熱心にご来聴下さった皆さま方には衷心から感謝いたします。そして講演の録音記録から文字起しをしてくださった事務局の長尾史子、長野裕子両氏にもお礼を申し上げます。

一連のこうした活動に深いご理解とご支援を約束されておられた寿岳潤氏夫人の和子様は昨年未急逝されました。心よりご冥福をお祈りし、私たちの出発をゆるした本書をご霊前に捧げます。

桜のつぼみふくらむ初春の頃

特定非営利活動法人向日庵 副理事長 中村 隆一